Close Up クローズアップ 交通教育センター

2018 トラフィックセーフティ・フォーラム in 埼玉
テーマは「人・企業・信頼」

開会式では主催者を代表して佐竹正規・（株）レインボーモータースクー ル代表取締役社長が挨拶

昨年 11 月 30 日、埼玉会館（埼玉県さいたま市）で「2018 トラフィック セーフティ・フォーラム in 埼玉」が開催された（主催：交通教育センターレインボー埼玉・和光）。このフォーラムは、交通安全活動に取り組む企業や団体を対象に事故防止の施策などの情報交換を目的に行われており、この日は企業・団体から約 300 名が参加。開会にあたり、主催者を代表して佐竹正規・（株）レインボーモータースクール代表取締役社長と、来賓を代表して古賀康弘・埼玉県警察本部交通部長が挨拶を行った。

まず、交通事故防止活動の事例発表として、東京キリンビバレッジサービス（株）総務部部長代理 常田健一さんと SUBARU 労連 SUBARU 労働組合常任執行委員 櫻井秀幸さんが、各々の社内における安全への取り組みを紹介。

東京キリンビバレッジサービス（株）は自動販売機による清涼飲料水などの販売を担っている。同社はドライブレコーダーを活用し、配送中のトラックの挙動に異常がみられた場合、管理者へ位置情報と走行画像を送信するシステムを導入。帰社後すぐに運転者へ適切な指導ができる体制を整備した。収集した走行画像は社内の安全講習会で共有している。また、交通教育センターレインボー埼玉で実施している研修や、同社の構内で実施しているトラックの車両感覚を醸成するためのトレーニング方法などを説明した。

（株）SUBARU は自動車や航空機の製造・販売を手がける企業。同社が力を入れている取り組みの 1 つは通勤途中での交通事故防止である。クルマで通勤する社員は「通勤時交通リスク洗い出しシート」を作成する。自分の通勤経路をマップ化し、通勤時のリスクをシートに記入。そして、通勤距離や途中にある見通しの悪い交差点の数などをもとにリスク度を数値化し、上司と通勤経路に無理がないかを話し合うのである。また、労働組合の取り組みとして、交通教育センターレインボー埼玉の協力を得て長期連休前に実施している動画 KYT ※ 1 教育を紹介。危険を予測するだけでなく、参加者同士でディスカッションすることによって自分では気づかない部分を確認できるなど、社員にも好評だという。

事例発表の後は、（株）本田技術研究所 四輪 R&D センター統合制御開発室上席研究員 杉本洋一さんが「自動運転技術の現状と今後について」というテーマで講演。「ドライバーが心から信頼でき、思わず出かけたくなるような自動運転の実現をめざしています」と、Honda の自動運転コンセプトを述べ、Honda は 2020 年に高速道路での自動運転技術の実現、2025 年頃までにパーソナルカーユースに向けたレベル 4 ※ 2 自動運転技術の確立というロードマップを示した。そして、開発中の高速道自動運転車の主要技術や機能を実証実験の映像を交えながら解説。「自動運転技術を通じ、人の移動価値と暮らしの価値の最大化に寄与してきたいと考えています」と杉本さんは締めくくった。

※ 1 動画 KYT = Honda が開発した教育機器。実際の交通状況を再現した動画を見ながら危険を予測し、結果を参加者同士が振り返って議論することで安全を学ぶ。
※ 2 レベル 4 =高度運転自動化。システムがすべての動的運転タスク及び作動継続が困難な場合への応答を限定領域において実行。

東京キリンビバレッジサービス（株）総務部部長代理 常田健一さん

SUBARU 労連 SUBARU 労働組合常任執行委員 櫻井秀幸さん

（株）本田技術研究所 四輪 R&D センター統合制御開発室上席研究員 杉本洋一さん

バイクスクールの 1 年を締めくくる
年末のスペシャルイベント

パイロンスラロームをしながら交互にすれ違う対面スラロームなどをインストラクターが披露

上級受講者のコーススラローム

インストラクターが受講者の運転を見て改善点をアドバイス

初級受講者には基本となる運転姿勢を丁寧に指導

プレゼントの抽選会などで、HMS を利用しているお客様とインストラクターが交流を深めた

昨年 12 月 22 日、交通教育センターレインボー埼玉は「2018 平成最後の走り納め HMS」を開催した。HMS（Honda モーターサイクリスト スクール）は、個人のお客様に楽しくバイクの安全運転を身につけていただくことを目的とした参加体験型のスクール。お客様のスキルやニーズに合わせて、様々なコースが用意されている。今回は日頃から HMS を利用しているお客様に 1 年間の感謝の意を表し、指導にあたっているインストラクターと交流を深めてもらうことを目的としたスペシャルイベントとして行われ、108 名が参加した。

午前中は通常の HMS。受講者は初級、初中級、中級、上級、オフロードの 5 つのコースに分かれ、より安全な運転をめざすための練習に取り組む。初級では、加減速する時のバイクの動きに運転姿勢を同調させるトレーニングが行われた。インストラクターが「加速時は肘をやや曲げ上体をハンドルに近づけ加速の力とバランスをとり、減速時は肘を伸ばして上体をハンドルから離し減速の力とバランスをとりやすくします。どちらの場合も頭の位置が上下に動かないようにし、視線を一定に保つことがポイントです」とアドバイスした。

午後はインストラクターによるデモンストレーション。10 名が息を合わせた対面スラロームなど華麗な運転技術を披露した。その後、バイク用品などプレゼントが当たる抽選会などが行われ、1 日にわたるイベントは終了した。

埼玉県志木市から来場した女性は「HMS の魅力は落ち着いて練習できて、インストラクターの方から一人ひとりに合ったアドバイスをもらえることです。このイベントは 1 年間練習してきた総決算として、毎年参加しています。練習するだけでなく、インストラクターの皆さんのデモンストレーションが見られるなど、普段の HMS とは違う趣向がある点もうれしいです」と感想を語った。